

# NEWS LETTER

Vol.1

「やさしい日本語」は 1995 年の阪神淡路大震災で被災した外国人へ情報が行き届かなかったことから考え出されたと言われています。(公財)福島県国際交流協会では、外国人だけではなく、子どもやお年寄りにも有効なコミュニケーションツールの「やさしい日本語」を広める活動に力を入れています。協働パートナーとして一緒に普及に取り組んでいる企業・団体の活動が共有できるよう、『NEWS LETTER』を作成し発行することになりました。2023 年は関東大震災から 100 年、各地の協働パートナーが取り組む『防災×やさしい日本語』を紹介します！



## 福島市国際交流協会・福島県国際交流協会 & 日本赤十字社福島県支部



トーニチ(株)からはインドネシアの特定技能・技能実習生と日本人社員、福島日本語学院の留学生、福島市の ALT、高校生ややさしい日本語普及員等17名が参加しました。防災講座では、外国人と日本人が 5 グループにわかれ、災害時に使う言葉を講師から教えていただきました。日本赤十字社福島県支部の野崎さんからは災害時に役立つグッズとして、新聞紙で作るスリッパや簡易トイレ、毛布ガウン等の作り方を教えていただきました。最後の「防災クイズ大会」は講座の中で勉強したことや知っておくと便利なことを出題し、学びを深めました。(9月9日(土)、福島市市民会館)



## 会津喜多方国際交流協会 & 福島県国際交流協会

会津喜多方国際交流協会が「外国人を対象とした防災意見交換会」を開催し、当協会が防災についてのやさしい日本語講座を実施しました。喜多方市内の企業の技能実習生とスリランカ出身の方、塩川町第1区の住民の方等が受講しました。行政区長からこの地域は10年に1度、水害が起きているとの説明後、日本人と外国人がペアになり、災害に関する言葉を「やさしい日本語」で説明しながら理解を深めました。(7月2日(日)、塩川町物産館)



# そなえる・ふくしま2023

(9月23日(土)、ビッグパレット福島)

防災  
イベント

## 福島県&福島県国際交流協会

福島県危機管理課主催の「そなえる・ふくしま2023」が郡山市のビッグパレットふくしまで開催されました。防災を楽しみながら学ぶ体験コーナーや災害時に活躍する車両の展示があり、小さいお子さんから年配の方まで多くの方が来場していました。当協会ブースでは、災害時に使う日本語を「やさしい日本語」へ言い換える体験を実施しました。「やさしい日本語って?」と初めてやさしい日本語に触れた方も多く、最初は皆さん言い換えに戸惑うのですが、コツをつかむと「なるほどね!」と笑顔も見られました。当日放送された福島テレビ様の番組で当協会の「やさしい日本語」の取り組みを取り上げていただいたこともあり、「テレビ見ました!」と声をかけていただいた方もいらっしゃいました。



※日本赤十字社福島県支部様は、11月11日(土)の「いわき防災EXPO2023」(イオンモールいわき小名浜)でもブース出展で一緒しました!

### 災害の時につかう日本語の言い換え(例)

避難	に 逃げます
停電	でんき 電気がつきません
土足厳禁	くつをぬぎます
火元確認	ひけ 火を消します

「相手にとって必要な情報は何か」を考えてみてね!



### 編集後記

防災講座やイベント等の前には「こんなことやろよ!」と外国人の方たちに参加のお誘いも兼ねて電話やメールで案内しています。そんな時、「講座はやさしい日本語にしてね」と言われます。もちろん使いますが、「やさしい日本語」で話すことで、外国人の方でも安心して参加することができます。講座を運営する側でも伝え方の工夫が大事ですね。

## 公益財団法人福島県国際交流協会

〒960-8103 福島市舟場町2-1 福島県庁舟場町分館2階

TEL 024-524-1315 E-Mail [lasanichi-f@worldvillage.org](mailto:lasanichi-f@worldvillage.org) (やさしい日本語担当)

